



▲ 弁天湯風致公園のオオハクチョウ(聖籠町)

会員各社名

アイサワ工業(株)	オリエンタル白石(株)	大成建設(株)	東洋建設(株)	(株)北都組
青木あすなろ建設(株)	(株)加賀田組	大日本土木(株)	戸田建設(株)	(株)本間組
あおみ建設(株)	鹿島建設(株)	大豊建設(株)	飛島建設(株)	前田建設工業(株)
(株)安藤・間	(株)熊谷組	(株)竹中土木	西松建設(株)	(株)丸山工務所
石黒建設(株)	五洋建設(株)	田辺建設(株)	日特建設(株)	三井住友建設(株)
岩田地崎建設(株)	佐藤工業(株)	鉄建建設(株)	日本国土開発(株)	みらい建設工業(株)
(株)植木組	清水建設(株)	東亜建設工業(株)	(株)福田組	名工建設(株)
(株)大林組	(株)銭高組	東急建設(株)	(株)フジタ	りんかい日産建設(株)
(株)大本組	第一建設工業(株)	東鉄工業(株)	(株)不動テトラ	若築建設(株)
(株)奥村組				



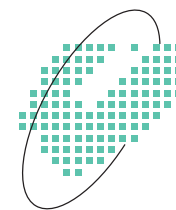
61 2016.12

発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷
〒950-1446 新潟市南区庄瀬6541-1 TEL(025)372-1334

平成28年12月15日発行

確かなものを 地球と未来に 日建連



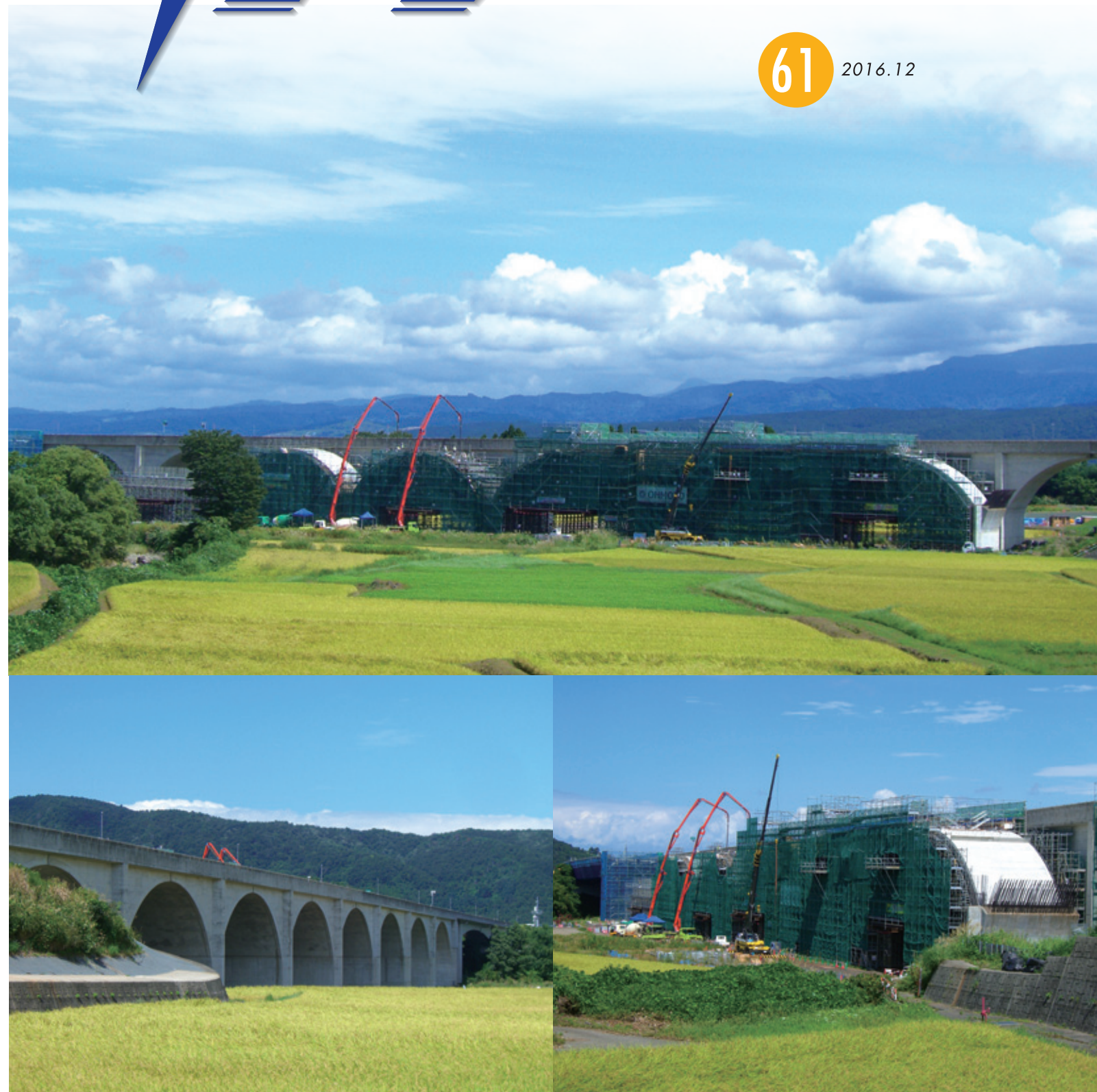
特集1——対談
北陸の地域づくりの考え方など

特集2——東日本高速道路(株)新潟支社との
意見交換会

特集3——中日本高速道路(株)金沢支社との
意見交換会

特集4——建設技術報告会

61 2016.12



一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部



61 CONTENTS

- 1 VISION
「建設業の担い手確保にむけて」
- 2 随想
「メンテナンス時代に
入っていく高速道路」
- 3 特集①
対談
北陸の地域づくりの考え方など
- 8 特集②
東日本高速道路㈱新潟支社との
意見交換会
- 12 特集③
中日本高速道路㈱金沢支社との
意見交換会
- 16 特集④
建設技術報告会
- 17 素敵な女性
「自分らしく」
- 18 エッセイ
『愛する人を思い浮かべて』
- 19 ゆうたいむす
●「洗濯表示が50年ぶりに変わります」
●「地方からの創造
愛すべき地元と変わった石川」
●「バレーが教えてくれたこと」
●「お気に入りの場所、現美新幹線」
- 21 私のプライベートタイム
「心地よいボクの時間」
- 22 事務局だより

表紙の写真：上信越自動車道4車線化区間(中郷IC～新井PA)延長5.8kmの4カ所に橋梁下部工を大本組で施工中。この「あらい高架橋」は最近では珍しい景観を重視したRC8径間連続充腹アーチ橋です。

「建設業の担い手確保にむけて」

鹿島建設㈱
常務執行役員北陸支店長

河本 克正
Katsumasa Kawamoto



9月にリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが閉幕し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催まで4年を切りました。今後、オリンピックの会場設備などの需要に加え、インフラ、宿泊施設などの整備による間接的な需要も含めて建設市場は東京を中心に2020年頃まで大きく増加すると予想されております。一方で、今も続く東日本大震災の復興事業に加え、今年発生した熊本地震など近い将来起こり得る地震への備えや台風被害による河川の氾濫など、自然災害への備えに対しても我々建設業は、その役割と責務を果たしていかなければなりません。

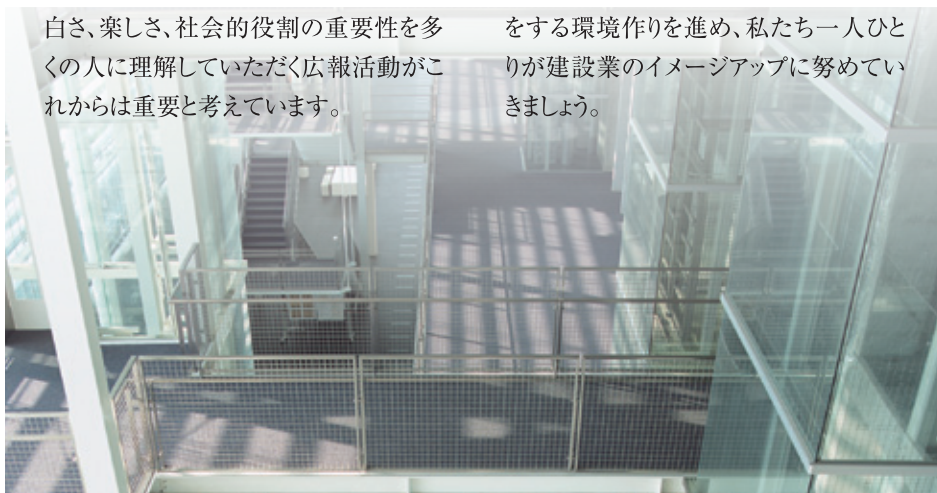
しかしながら建設業では、新規入職者の減少と働く人の高齢化が進み、担い手の確保と、省力化などによる生産性の向上が喫緊の課題となっています。

担い手の確保については、給与面だけでなく、休日の確保などの就労環境の改善なども大事です。また、建設業の面白さ、楽しさ、社会的役割の重要性を多くの人に理解していただく広報活動がこれからは重要と考えています。

自分たちの日頃働いている姿を、地域の方、未来を担う若者たち、子供たちに広く見てもらうことが大事なのではないでしょうか。華やかなオリンピックが開催される建物がどのように作られているのか、災害から生活を守っている施設や、物流を支えるインフラがどのように作り上げられているのか、そしてそこで働く人たちがどのように頑張っているのか、多くの人に見せることこそ、建設業を知ってもらうために必要なことではないでしょうか。現場を綺麗に保ち、使命感とやりがいの中で頑張る我々の輝く姿をもっともっと見てもらいましょう。

一方、品質上の問題や安全上のトラブルが発生すれば、建設業は社会的信用を失い、厳しい目で見られことも肝に命じておく必要があります。

我々がキラキラと輝いて働き、建設産業が社会に魅力的な産業であることをアピールしていくために、現場で働く社員・職人さんが、楽しく誇りを持って仕事をする環境作りを進め、私たち一人ひとりが建設業のイメージアップに努めていきましょう。



「メンテナンス時代に入っていく高速道路」

NEXCO東日本 新潟支社
道路事業部長

沖田 竜司
Ryuji Okita



新潟県的高速道路を運営する当支社は、お客様の安全確保を第一に高速道路ネットワーク約430kmの保守、機能強化を行っています。これまで適切に維持管理を行ってきたとはいえ、中には完成後30年を超える区間もあり、特にトンネルや橋梁など構造物本体の老朽化への対応が喫緊の課題となっています。

現在は、そういった構造物の点検、診断を行いながら、損傷や劣化の激しい箇所から、「高速道路リニューアルプロジェクト」と称し、橋梁の床版取替やトンネルインバートの設置など順次進めていくこととしています。

工事を行うにあたっては、これまでにない大規模で長期にわたる交通規制が必要になります。供用中の高速道路で渋滞を最小限に抑え、お客様の安全を確実に守るために、設計段階から実際に施工する建設会社の提案を受ける新たな入札契約方式として、「技術提案・交渉方式」を一部の工事で採用する予定です。

高速道路の機能強化として代表される拡幅は、2車線で供用中の上信越自動車道の4車線化工事を実施しています。昨年までにトンネル、橋梁等の本体工事を発注し、全線で本格的に工事を展開しているところです。渋滞の解消、お客様の安全・安心の向上のため、早期完成に向けて努めてまいります。

冬期の雪対応についても当支社の仕事の多くを占めております。長時間の滞留は命にかかわることもあることか

ら、有機的に機能する国道や県道等としっかり連携した行動が求められ、情報共有や相互支援をスムーズに行う体制を構築することを中心として対応することを考えていきます。

かなり古く個人的な話になりますが、学生時代に土木工学を学んだ頃、土木技術とはコストを引き下げること、技術開発も同様にコストを下げるための技術を追及することであるように教わりました。そして、仕事の場面でも同様に考え、特に初期コスト(若干ライフサイクルコストも念頭に置きつつ)の観点で頭を整理してきました。当時は本格的な高齢化社会を迎える前に最大限のインフラストックを生み出すことが大きな目標でありましたが、現実として高齢化社会に突入した今では、老朽化したストックの更新と日常的な維持管理を行うための担い手を確保することが大きな課題となってきます。

高速道路の場合長期的に考えると、加えて交通量が減り、「ヒト、カネ」とともに少ない状態でお客様の安全・安心を守るためには、今のうちに資産の長寿命化と効率的な管理手法を築き上げておく必要があります。さらに、いわゆる雨の降り方も近年大きく変化しているなど異

常気象による土砂災害等も多く発生しており、そういった災害防止の取り組み強化も求められています。

このような課題は当社に限らず、建設業界全体が抱えているものであり、建設会社、建設コンサルタント、道路管理者など、それぞれ経営が異なるとはいえ、技術的には相互補完しながら取り組んでいくことが重要だと考えています。さらにこれまで建設業界に携わってきた私たちの世代は、土木技術が国民の活力と安全・安心を支えるという重要な社会的役割を担っていることを理解してもらえるよう努力を続けなければならないと思います。

最後になりますが、NEXCO東日本グループでは、高速道路の建設、維持管理に加え、休憩施設の運営も行っています。読者の皆様方には道路技術のほかにもお客様の立場としてのご意見等もいただきながら、より質の高い会社になることを目指してまいりますので宜しくお願いいたします。

対談

【日時】
平成28年10月20日(木) 9:30～

【場所】
白山会館2階 明浄

日本建設業連合会北陸支部長

守田

Susumu Morita

進

北陸地方整備局長

中神陽一

Yoichi Nakagami

今回は、本年6月に就任された北陸地方整備局長中神陽一氏と、日建連北陸支部長守田進氏による対談です。局長ご就任以来4ヶ月を経てのご感想や、北陸の地域づくり、担い手確保等についていろいろと、お話を伺いました。

- ①北陸地方整備局長ご就任4ヶ月を振り返って
- ②北陸の地域づくりについて(i-Constructionの普及・推進)
- ③H29年度予算概算要求について
- ④担い手確保(入札契約制度含む)について
- ⑤建設業界の広報活動について
- ⑥建設業界、日本建設業連合会への要望について
- ⑦災害対応について
- ⑧終わりに

中神陽一氏 略歴

昭和57年	4月	建設省 採用
平成	8年11月	同 東北地方建設局 秋田工事事務所長
〳	14年 7月	新潟県 土木部 都市局長
〳	16年 4月	国土交通省 道路局 有料道路課 有料道路調整官
〳	20年 7月	同 中部地方整備局 道路部長
〳	22年 9月	(独)日本高速道路保有・債務返済機構 企画部長
〳	24年 9月	国土交通省 道路局 高速道路課長
〳	26年10月	同 大臣官房技術参事官
〳	28年 6月	北陸地方整備局長(現職)

(支部長)

日建連北陸支部の守田です。よろしくお願ひ致します。

中神局長におかれましては、本年6月21日に北陸地方整備局長にご就任され、大変お忙しい毎日をお過ごしのこととと思いますが、本日は対談ということでお時間を頂き、誠にありがとうございます。

本日は、北陸の地域づくりの考え方など、7つのテーマについてお話をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

①北陸地方整備局長ご就任4ヶ月を振り返って

(支部長)

早速ですが、北陸地方整備局長にご就任して間もなく4ヶ月をお迎えになられます。この間に地域の知事や自治体の首長の方々、建設業界の方々から様々なご意見やご要望をお聞きしていることと思いますが、この4ヶ月間を振り返って頂いて、北陸地域のご印象などをお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

今週、松本砂防事務所を訪れ、管内の全28事務所全てを回り、現地も視察させてもらったところです。北陸は四半世紀ぶりですが、我々の世代が若い頃に計画したプロジェクトが、その後の後輩同僚の皆さん方

の努力により、大体姿が見えてきて、次のプロジェクトを一生懸命考えていかなければならない時期にきたということを考えさせられました。

また、個人的には、日本海沿岸東北自動車道の新潟～村上間が供用していますが、約30年前に担当した際、昭和63年から平成元年の2年くらいにかけて、地元説明・対応等都市計画決定に向けた検討を進めていたことを想起すると、順調に開通を迎えたということで感慨深い感じがしています。

日本海沿岸東北自動車道の村上以北の部分はこれから立ち上がっていく大きなプロジェクトに位置付けられ、新潟・山形県境に

向けて一生懸命進めていきたいと強く思い至らされたという感じです。



国道7号 朝日温海道路の工事着手

②北陸の地域づくりについて(i-Constructionの普及・推進)

(支部長)

北陸地方整備局では、本年3月に「北陸ブロックにおける社会資本整備重点計画」が策定されました。5つの基本戦略を設定し、北陸の活力ある地域づくりを進めて行くと聞いております。また、国交省では今年度を「生産性革命元年」と位置付けております。北陸地方整備局ではi-Constructionを柱としておりますが、現場では情報通信技術(ICT)を用いたドローンや建設機械による土工、機械式鉄筋継手及びプレキャスト製品の適用範囲の拡大等に取り組んでおります。現場における生産性向上に向けた取り組みなどについてお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

着任する直前にi-Constructionの最初の事例ということで、北海道開発局の「道央圏連絡道路千歳市泉郷改良工事」と北陸地方整備局の阿賀川における「宮古弱小堤防対策工事」が全国皮切りということで紹介されました。北陸地方整備局は地方建設局時代から新しいものにチャレンジするというDNAがあるのですが、それがまだ十分生きているなどということを感じながら赴任しました。

管内の現場を回った中で、今週は石川県の能越自動車道のICT施工現場を見せていただきました。石川県は「コマツ」の本拠地でもあり、「コマツ」も県内の事業に力を入れているようで、一般の方々の見学用の施設を作って高校生などを呼んで現場を見てもらったり、かなり活発な取り組みがなされつつあるという感じがしています。

i-Constructionは、「ICT施工」はもちろん

んですが、「プレキャスト化」と「工期の平準化」ということで三つの柱を立てていますが、いずれも北陸にとっては非常に重要なテーマばかりで、「プレキャスト化」は雪国ですので、昔からかなり重点的に取り組んでいるテーマで得意な分野とも言え、早速プレキャスト化の事例集を作って活用していただいています。「工期の平準化」では砂防工事の現場などは、特に冬に入ってしまうと施工できず、年度をまたぐような工期の活用の仕方をしなければいけませんでしたので、それを一層進めて何とか閑散期と繁忙期の波をなくしていく方向に舵を取っていきたいと思っています。

(支部長)

私見ですが、民間の建設会社の中でもこのテーマは、生産性向上という切り口で言われていますが、世の中をリーディングする機械または制御の技術革新が希望を生み、結局は担い手確保につながり、既に就業している技術者や専門工事業者の定着率向上に寄与すると思います。もっとマクロで言いますと、世界の建設業界を日本がリーディングしているところを見せるためにも、我々も一生懸命やりますが、国の主導というものが不可欠です。担い手確保につながる希望といった意味で、大きなテーマではないかと思っていますので、是非ご協力をお願いします。

(北陸地方整備局長)

全く同感で、先ほど申し上げた能越自動車道もそうですが、一昨日拝見した松本砂防事務所の工事現場でもICT施工ではないのですが、無人化施工でリモートコントロールのバックホウなどを使って施工しているのです。それを見た地元の小学生などが、その後建設業界に入った方がいるということで、やはりカッコいいというか、そういう姿を見せて魅力を感じてもらえればいいのかなという感じがしています。



無人化施工機械による施工

③H29年度予算概算要求について

(支部長)

8月末に公共事業関連費が約6.6兆円規模で、国土交通省関連の来年度予算の概算要求が行われました。北陸地域における主要なプロジェクトである大河津分水路の改修事業や日本海沿岸東北自動車道、利賀ダム建設事業についてスケジュール感も含めましてお考えをお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

まず、日本海沿岸東北自動車道では、現在、工事用道路の施工を行っています。トンネル工事を発注する段階にきていますので、来年度以降、積極的に事業展開できる状態になるのではないかと思います。事業費は1,900億円ということになっていますので、その辺は地元の県や自治体も含めてぜひ応援をお願いしたいと思っているところです。

大河津分水路については、事業費1,200億円とこちらも大プロジェクトです。現在、用地取得中で一部工事用道路の工事に着手していますが、これも今後ICT施工などが大活躍するようなプロジェクトではないかと思ひますし、これが終わらないと信濃川の中流部や上流部の方に大々的に手を加えていけませんので、信濃川全体の治水能力を上げるためのカギとなる事業を何とか早く本格的に着工できるよう頑張っていきたいと思っています。



大河津分水路

利賀ダムにつきましては、この8月25日に「継続」という方針が決まり、本体着工に向けて次の段階に進むことができるようになったので、こちらの方も現場が早く動くように努めていきたいと思っています。

(支部長)

大河津分水路は明治以来の土木事業または土木技術の歴史の延長線上にあり、新潟県の治水、発展というものについて利する

工事であったと思います。このことが結局は、担い手確保につながっていくのではないかと思います。新しい技術という意味ではなくて、歴史の中にある仕事を国のプロジェクトとして、そしてまたそれが直接、新潟県または北陸地方の防災や経済の発展に直接役立っている。そういうものに携われるということや、プロジェクトがあることが担い手の確保や既に建設業に携わっている人達の夢だとか希望を大きくしていくと思います。金額の大きさではなく、歴史の上に成り立っているところがとても大切に、責任感ですとか使命感のようなものが湧いてくるのではないのでしょうか。是非とも強力に推進していただき、できました色々なところに広報活動して下さいますと、ありがたいと思っています。

（北陸地方整備局長）

今年は、ちょうど「横田切れ」から120年の年でいろいろ関連する行事も行っています。一つのプロジェクトについては、ストーリーというか、ヒストリーというか、そういう事をきちんと伝えていかなければいけないと思っています。以前から、来客があると大河津分水資料館をご案内するというのが通例だったのですが、今後も、そういう機会を通じて歴史みたいなものをぜひ若い人にも伝えられるような取り組みが必要だと思っています。

先日、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」のイベントが行われたときも、皆さんは、信濃川の川幅は昔からこのくらいだと思い込んでいるので、昔はこの3倍あったという話をあいさつの中でさせてもらったのですが、大河津分水の歴史も含めて広報活動は重要だなと思っています。

（支部長）

我々日建連としても広報活動が結局は業界の位置づけを決めてしまうかもしれませんが、担い手の問題につながるのかもしれませんが。国際的にはパナマ運河ですとかスエズ運河のように、歴史の中の一つの重要なポイントで一般の方にもわかりやすく、ダムの効果というのは実感しにくいかもしれませんが、大河津分水路の効果は、一般の方にも非常に分かり易いので、広報活動をしていただきたいと思っています。

（北陸地方整備局長）

余談ですが、最近、ダム関係の「ダムカード」というものもありますが、見学する方がすごく増えてきているようで、土日も含めてどういう体制でインフラツーリズムに臨むかという

こともけっこう大きな課題であり、せっかく関心を持ってもらっているの、そこはしっかりとアピールできれば良いかと思っています。

④担い手確保（入札契約制度含む）について

（支部長）

昨年3月に日建連が発表いたしました建設業の長期ビジョンにもありますように、100万人規模の大量離職時代の到来と90万人の新規入職者の確保、生産性向上による35万人の省人化といった具体的な目標を掲げました。建設業界の担い手確保・育成には、いわゆる「新3K（給与、休日、希望）」と言われ、魅力を与えられるような勤務環境と処遇改善が必要であると考えておりますが、どのようなご意見をお持ちか伺いしたいと思います。

（北陸地方整備局長）

新3Kは、なかなか地方整備局だけでは難しいのですが、給与の関係ではここ4年間連続して公共工事設計労務単価を引き上げてきており、バブル時代には届かないと思いますが、相当上がってきていることは間違いないですので、そういった処遇、待遇の改善というのが進むように、品確法の徹底により全産業平均値以上を目指していくべきだと思っています。

休暇の関係でも週休2日モデル事業とか、週休2日を前提とした工期設定みたいなモデル事業も取り組んでいきたいと思っています。設計業務などの分野では、恐らく全面的に週休2日は大歓迎だと思いますので、あとは建設現場の方にどのように浸透させていくのかというのが課題かと思っています。

それから希望の関係では、先ほど申し上げたカッコいい現場や女性のトイレの関係など、そういった現場環境の改善ということに取り組んでいきたいと思ひますし、若手技術者や女性技術者を配置した場合にインセンティブを与えるような評価制度の見直しとか、若手や女性の方が入りやすいような、評価されやすいような環境を整えるべく、そういった取り組みをしていきたいと思っています。

（支部長）

今日は、ご意見を伺うということなので、このような言い方になっていますけれど、ほとんどの部分については民間側または日建連側で対応しなければならない事がたくさん

あります。そのため国に全てを求めているわけではありませんが、川上においてそのような流れを作っていただいたら、非常にありがたいです。

また、今おっしゃっている女性技術者というのは、学科を選ぶときに土木、建築を選んでおかなければいけません。学校では、土木とか建築という名前を無くしていく方向にある中、まずその辺の魅力を出していかなければいけないと思います。そのためには、先ほど申しましたように、やはりこの業界が魅力的であって、旧態依然としているのではなく、やはり先進的なもの、またはそれにトライをしているというところをアピールすることがいろいろな意味で担い手確保につながるのではないかと思います。国土交通省を中心に休日または給与について積極的に改善していただいていることは本当に感謝しております。さらに一緒にやらなければいけないところが夢と責任感みたいなものが両方ペアでふくらんでいくように、一緒にやっていただけたらと思っています。

（北陸地方整備局長）

主に北陸3県なのですが、やはり各建設業界の方のご意見は、仕事量の大波小波は勘弁して欲しい、持続的に確保可能な人間も限られているので、着実に仕事ができるような環境が欲しい、そういう意見が非常に強かった事が印象的です。特に、西部の方は北陸新幹線が開業した後に相当仕事量が減ったということもあって、プロジェクトが「わっ」と動いて、「ぱっ」と止まるみたいな、そういうことではなくて、安定的なプロジェクトを望む声が非常に強かったという感じがします。

あとは夢のあるプロジェクトということで、今後、こういった社会インフラ投資があるのか、そこはよく考えなければいけないと思います。

⑤建設業界の広報活動について

（支部長）

日建連北陸支部では、安全・安心な国土づくりに資するために、社会資本整備の意義とか、必要性、又はそのやりがいとか、そういう理解促進を図るために、積極的に情報発信しているつもりです。地域づくりを担う魅力ある建設産業ということへの理解促進の観点から、広報というものに対して北陸地方整備局での具体的な取り組み、又はこのよう

にしていったらどうかということについてお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

担い手の確保・育成に向けて、北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会の新潟県部会では、どこで・誰を対象に・どのようなイベントがあるかが一目でわかる「担い手カレンダー」というものを作成しています。また、i-Constructionの関係でも「北陸i-Construction通信」を作成してアピールするような取り組みを行っています。



担い手カレンダー

あとはTEC-FORCEの関係で、今年は4月の熊本地震対応で熊本県へ、9月の台風10号に伴う豪雨対応で岩手県へ隊員を派遣しており、各事務所等の出陣式や現地での活動の状況などを紹介して地元のニュースにも取り上げていただく活動を行っているところです。昔に比べると相当頻繁に行っており、それぞれのイベントごとにテレビで放送されるようになってきているのではないかと自負はしているのですが、この調子で引き続き行っていきたいと思っています。



熊本地震対応TEC-FORCE土砂災害アドバイザーが活躍



台風10号対応TEC-FORCE 先遣隊出陣式

（支部長）

TEC-FORCEがだんだんマスコミにも取り上げられ、非常に広報になっているという感じがします。是非その活動を続けていただきたいと思います。

（北陸地方整備局長）

平成16年の新潟県中越地震の時はまだTEC-FORCEという概念はありませんでしたが、他地域からかなりの応援を受けています。そのため、今後、いつの日かまたこちら側が外からTEC-FORCEの応援を受けるかもしれませんので、その時どのように対応するべきかといういろいろなシミュレーションをしていかなければいけないと思います。

また、せっかく現地へ行って貴重な体験、知見、経験をしてきていますので、それを共有するということもあって、報告会を開いたり、組織の記憶として何とか蓄積していくような工夫をしていきたいと思っています。

（支部長）

TEC-FORCEというネーミングがとて良くて、支援をすることが如実に一般の方に伝わりやすいですし、それだけではないですが、このような地道な広報活動や、担い手カレンダーのように、我々日建連としても、もっといろいろな方面に広報活動を広げていきたいなと思ったところです。

（北陸地方整備局長）

最近ではTEC-FORCEは現地で一般の方に「ありがと」と言われて激励されたりとか、声をかけられたりすることもあるようです。ただ、宿泊地やロジスティクス関係もあり、あまり長い期間は難しいので約1週間毎に交代しています。

（支部長）

その辺が自衛隊とは違うところですね。

（北陸地方整備局長）

自衛隊とは、違いますね。自衛隊のように自己完結できれば全然別なのですが、そこは限界があります。

（支部長）

鬼怒川の決壊の時も復旧対策にTEC-FORCEの方や、それに参加されている民間の方々を含めて非常に力強いものがテレビでも放送されていました。自衛隊ではできない分野だと思います。

（北陸地方整備局長）

日建連にもいろいろ現地の復旧・復興の関係でご尽力いただき、ありがとございす。建設業界でなければできない仕事という

のはすごくたくさんあるので、そういう意味では官・民・学一体でいろいろ動けるような工夫が必要かという感じはします。

鬼怒川の例で言えば、排水ポンプ車など機動力、機械力を全国から集めて、それも先ほどの広報活動と絡むものですが、中部地方整備局や北陸地方整備局から派遣された排水ポンプ車が活躍しているという姿を見せられたのは良かったと思います。



排水ポンプ車による排水作業（関東東北豪雨）

（支部長）

そのような活躍が映像として世界にも発信されていると思います。あれだけ素早く水を排水できる国は、そう多くないと思います。

（北陸地方整備局長）

平成23年に、タイで大きな洪水があり、国土交通省として専門家や排水ポンプ車を派遣しています。

（支部長）

緊急時の対応のスピーディーなところは、日本の底力だと思います。数日間の中で水が引けていって、次のステップの復旧に入っていく様子が報道でどんどん流れていました。広報という観点から、非常に良かったなと感じたところです。

（北陸地方整備局長）

先日、新潟のテレビ局が、北陸地方整備局の災害対策室に関して取材に來られて、「北陸地方整備局でも、いざという時の備えがあります」と報道され、防災体制のアピールもできた感じがしています。

⑥建設業界、日本建設業連合会への要望について

（支部長）

建設業は、国内総生産、または全産業の中の一般の労働者の中では1割余りを占めており、基幹産業であるという自負心があります。特に、北陸地域というのはそのウエイトが他の地域よりも高いわけですから

重要な産業であるということと認識しています。北陸の活力ある地域づくりという観点から、日本建設業連合会または建設業界に対して、ご意見、ご指摘、またはここがだめなのではないか、こうするべきではないかというお話がございましたら是非、お聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

建設産業自体のプレゼンスというのは、今、話題になっているような災害のとき、ある程度基本的な体力は絶対に必要でしょうし、北陸の場合は雪がありますので、対応するためのマンパワーというのはどうしても必要ですから、そういう業界の力が衰えないようにしていく必要があります。それに向けて、官民協力しあっての取り組みを是非お願いしたいと思っています。ただ、もちろん先立つものが必ずあるので、最近ストック効果ということで必要性を訴えています、このように役に立っているのだということは是非知恵を出し合ってアピールしていきたいと思っています。

また、いろいろなパネルや事例を集めて国土交通本省の中でもパネル展を行ったのですが、知事の方々も自県のところのパネルの前で写真を撮ったりとか、けっこう関心が高かったという感じはしています。引き続き、事業の効果、目的みたいなことはきちんと「見える化」して出していけるように進めていきたいと思っています。

⑦災害対応について

（支部長）

昨年9月の関東・東北豪雨災害があり、今年4月には熊本地震が発生しましたが、この北陸地域における災害対応についての考え方や新たな取り組みのようなものがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

北陸地域の中でということもさることながら、先ほどTEC-FORCEの話題が出ましたが、関東首都圏の大震災、東南海地震の懸念もありますので、そういったときに全国的な貢献がどのくらいできるのかということは考えていかなければならないと思っていますし、実際、どれだけのことができるのかという問いかけもあるので、そういったことはよく研究していきたいと思っています。

昨年、今年も雪による大渋滞とか、二、三年前の東名・名神高速道路が止まったり、予

期せぬところに雪が降ったりするので、洪水対応というタイムラインみたいなものが最近言われていますが、警察や県なども含めて各関連する組織がどのように動くのかということは、日頃からよく詰めておく必要があると思っています。そこはきちんとできるように、昨年の冬の教訓を活かして対応できるようにしていきたいと思っており、それは北陸ならではの取り組みになると思っています。

⑧終わりに

（支部長）

最後に全体を通してといいますか、建設業以外でも結構ですし、ご意見または、お考えがございましたら、お聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

先ほど次なるプロジェクトというお話をしましたが、私の専門分野的なところでは、やはりいろいろところで高速道路の4車線化や一般国道の4車線化を何とかして欲しいという声かけが強いんです。ただ、先ほどのストック効果の数値化ではないですが、B/Cが低いとかそういう懸念があってなかなか事業着手というところに持っていくのが難しいという部分もあって、そこをどうしようかということはあると思います。

（支部長）

新潟県がこれだけ発展したのには、大河津分水路などによる治水によるところが大き

いと思いますが、新潟の人たち一人ひとりと話してみると、何かあまりピンときていないように思います。

（北陸地方整備局長）

恐らくできた瞬間に当たり前になってしまうというのは社会インフラの宿命でありまして、ウィズ、ウィズアウトでないときを想像してもらおうというのは、なかなか難しいです。その点は、歴史的な資料で補っていくしかないと思います。

（支部長）

先ほども申し上げましたが、大河津分水路の改修事業は、既に予算化されていますが、それを遂行するにあたって、大河津分水路の歴史を強調していただいたら、まず新潟県民の方は分かっていたいただける感じがします。

（北陸地方整備局長）

今日、話題になっていませんが、更新とか大規模修繕とか維持管理というのは、相当話題になっています。作るばかりではなくて、そちらの方がけっこう大きい課題かと思っています。

（支部長）

いろいろと、ご意見をいただいたので、日建連としても宿題としてとらえて検討していきたいと思っています。

今日は長時間、本当にありがとうございました。



東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会

■開催日／平成28年9月21日(水) ■場所／東日本高速道路(株)新潟支社



東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会出席者名簿(敬称略)

東日本高速道路(株)新潟支社

技術部長	今川 俊二
道路事業部長	沖田 竜司
技術審査役	奥 潤一
事業統括課長	小林 克久
建設課長	齋藤 正司
技術管理課長	佐々木英雄

日本建設業連合会北陸支部

契約積算・技術委員会		
委員長	河本 克正	
副委員長	早川 文夫	
副委員長	志満 信彦	
委員	石田 義樹	西口 達也
	中澤 太	嶋田 浩一
	山村 学	尾藤 雅史
	(代理:下村一夫)	(代理:小林 司)
	梅崎 良明	渡邊 浩匡
	清水 浩	高辻 陽一
事務局長	本間千代吉	

※役職名は意見交換会当時のもの

平成28年度における新潟支社管内の事業計画について

（NEXCO東日本新潟支社）

お配りのA4の事業概要に基づきまして、簡単にご説明させていただきます。新潟支社につきましては、新潟県内の北陸自動車道、関越自動車道、磐越道、上信越道、日本海東北自動車道の5路線の430キロの管理と、上信越道の信濃町から上越ジャンクションの37.5キロの4車線化事業を行っています。

組織体制は、支社長を筆頭に3部17課2チーム。事務所は4管理事務所、1工事事務所があり、社員数234名で管理と建設を行っている状況です。

新潟支社管内の平均の交通量は、平成27年度で1万6,600台となっています。ETCの利用状況については、新潟支社管内の利用率は3月時点で90.8パーセントです。東日本管内のETC利用率ということで87.8パーセントです。スマートインターの状況は、新潟支社管内は9つのスマートインターがすでに供用済みです。長岡北スマートインターについては今事業中であり、平成28年度の開通を目指しています。

道路管理事業ということで当支社管内はやはり雪氷に対する対策が大きな事業を占めています。平成27年度の作業状況では、除雪作業員は平成27年度、約530名、一般シーズンの雪氷作業延長は49万キロということで、実績で約43億円の事業費となっています。新潟支社管内の管理費用全体で約200億円の5分の1くらいが雪氷の作業に費やしているという状況です。

交通安全対策として、磐越自動車道の三川インターから安田インター間の2.5キロについて付加車線の設置事業を行っています。ここは五十母川橋の285メートルと吉津トンネルの52メートルと一部土工区間の付加車線の延伸事業を行っており、五十母川橋につきましては、平成29年の完成を目指している状況です。

高速道路の改築事業ということで、波浪対策護岸工事ということで北陸自動車道の親不知海岸高架橋の波浪対策工事を平成18年より行っており、40トンのテトラポッド約1,600基を設置しています。今年度、国の完了検査を受けて事業を完了する予定です。

スマートインターの事業につきましては、長岡北スマートインターを現在、事業を行っており、今年度完成を目指して現地に施工しているところで、土工もほぼ完成し残るところの舗装と施設関係の事業になっています。

上信越道の4車線化事業につきましては、信濃町インターから右側、北陸道との接続、上越ジャンクションまでの区間37.5キロの約24.7キロの区間5か所で4車線化の事業を行っています。この区間につきましては、平成30年度内の完成を目指して、現在、鋭意事業を進めているところです。



今年度の入札参加資格要件の緩和の動向について

（NEXCO東日本新潟支社）

今年度の入札参加資格要件の緩和の動向につきましては、配置予定の登録時期の緩和です。これは特記仕様書にも記載していますが、従来は「報告時から」といったものを「契約時から」という形で緩和しているということを継続して実施していることが一つ目です。それから、標識工事につきまして、近年の入札参加者の減少がありまして、競争環境の一層の向上を図るということで条件付き一般競争入札方式において、A等級に限定していましたがB等級の参加も可能にしています。舗装については、舗装談合問題も受けまして舗装工事においても競争環境の向上を図るということで、条件付き一般競争入札方式についてA等級に限定していたものをB等級の参加を可能としたということで、標識工事と舗装

工事についてレンジの緩和を行ったということです。

大規模更新・修繕工事の発注の状況・発注形態等ですが、まず大規模更新・大規模修繕の発注実績は本日時点で1件契約済み、1件公告済みとなっております。契約済みの工事につきましては、上越管理事務所管内の盛土路面の補強工事、縦排水溝等の補強工事です。入札公告につきましては、北陸自動車道高瀬橋床版取替工事の公告内容からいきますと公募型プロポーザルという形で公告を行っています。高瀬橋につきましては、国交省が取り組んでいる技術提案・交渉方式を採用しております。皆さんから技術提案をいただいた上で契約する新たな方式で、この高瀬橋については採用しているということです。

実施計画でいきますと、東日本高速のホームページに高速道路リニューアルプロジェクトをホームページに記載されています。橋梁、土構造物、トンネルと3つ大きな括りですが、橋梁につきましては、床版取替や桁取替、それから修繕では高性能床版防水工、それから桁補強といったものが橋梁の部分になります。それから土構造物につきましては、グラウンドアンカーとか水抜きボーリングとかが土構造物になります。それ

からトンネルにつきましては、インバートの設置、補強、それから覆工の補強といった内容で計画しております。これらはNEXCO3社で記者発表もしているのですが、約3兆円の事業費ということです。

発注の見通しについては、今後年度内には10件程度の手続きに入ることで見通しを立てているところです。

工事施工の円滑化と適正な工程管理を行う上での受発注者のコミュニケーションの確保について

（NEXCO東日本新潟支社）

国交省が出している工事円滑化推進会議については、受発注者間のコミュニケーションの充実を図るためのものと理解していますが、当社もこの点に関しては重点を置いているということで、この理念は踏襲していると考えています。具体的にはワンデーレスポンス、三者協議会、これは従前から継続して実施させています。それから、昨年度からの設計変更ガイドラインの説明会も実施しており、コミュニケーションの充実と共通認識の確立にも努めていると考えていま

す。それから、竣工検査、品質管理巡回の時に受注者と意見交換会をさせていただいております。このときには支社の事務所のメンバーは入らずに、限定した方で意見交換会を実施させていただいています。

三者協議会は、現在運用しているのですが、すべての工事でやっているわけではないので、設計条件が変更になっても工事目的物に影響を与えないものとか、そういった限定した工事については実施しないこともありますので、そこはご理解のほどお願いしたいと思います。

積算工程に係る図書等の交付並びに積算条件の明示の状況について

（NEXCO東日本新潟支社）

積算条件の明示については、床版取替工事が発生した場合には、施工ステップ図をこちらのほうから契約図書を添付し、積算工程上、外部要因等によって工程計画が制約を受けるような場合には発注図書に積算工程を添付するというので取り組みを実施しています。設計変更ガイドラインの方にも記載されており確実に実施していきたい。

それから、すべての割掛項目について、割掛の内容、数量

の内訳といったものを発注図書に添付し、受発注者間で認識の齟齬が生じないようにしています。それと現場条件等によって大きく変動する可能性のある工事用道路とか、工事用仮橋とか、従来割掛項目であったものは検測項目とするということも随時やっています。これもガイドラインの方にも明記されていますので、現場の方でも確実に実施されていると思っています。

施工条件・現場条件の変化に応じた迅速なレスポンスについて

（NEXCO東日本新潟支社）

ワンデーレスポンスの実施については、私どもとしては確実に実施されているのではないかと考えています。受発注者間のコミュニケーションも取れますので、こういった実施状況を踏まえて今後も確実に実施し、更なる浸透と必要な改善を図りたいと考えています。



設計変更ガイドラインの改定の現場における浸透への取り組み状況について

(NEXCO東日本新潟支社)

説明会実施の実績から申しますと、平成27年度、昨年度とそれから今年、平成28年度にそれぞれ5回ずつ行っており管理事務所、信越工事の各事務所で計5回、2年度で計10回実施しています。昨年の秋に当社の本社でアンケートを実施していますが、六、七割の受注者の方がガイドラインを活用しているとご回答いただいております。そのうち9割の方が

「役立っている」とお答えいただいております。しかし、全体の約2割がガイドラインの存在を知らないと回答していますので、引き続き浸透活動を継続していきたいと思っています。ガイドラインの説明会につきましては、新潟支社だけではなく東日本全体で行っております。皆様からいろいろなご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

発注時における条件明示の展開状況について

(NEXCO東日本新潟支社)

先ほどの積算条件の明示の取り組みとして重複することがありますが、先ほど申し上げたとおり工事施工等のステップ図を添付することであるとか、外部要因等で制約を受けるような場合につきましては、発注図書に積算工程を添付する取り組みを行っています。それから、割掛につきましても、割掛の内容や数量の内訳を発注図書に添付しまして、齟齬が生じないようにしているということは従前から取り組んでいるということです。

(日本建設業連合会)

我々のほうもきちんとガイドラインを認識して工事を進めていかなければいけませんし、ワンデーレスポンスもお互いの会

話がきちんとできるようにしていかなければいけないと思います。前向きな取り組みをしていただいたので、引き続きよろしくお願いします。



生産性の向上について

(NEXCO東日本新潟支社)

ICT技術の活用については、構造物の健全度の点検であるとか診断等に積極的に取り組んでいます。大規模更新・修繕工事はこれから本格化していきますけれども、インフラモニタリングシステムの早期実用に向けたRAIMS(ライムズ)にも当社も参画しておりまして、有識者の先生であるとか、ゼネコンや建設コンサルタント、それから通信メーカーといった専門家と連携して、損傷データの品質向上や効率化施工等を目指して取り組んでいきたいと思っています。規格の標準化については、今後の大規模更新・修繕の本格化に向けた品質向上、効率化施工等を目指した取り組みが必要になってくると思っています。

種々の工事関係書類の簡素化ということでは、本社も含めまして、日建連さんの高速道路部会のご協力も得まして書類の簡素化について検討しているところです。省力化の取り組みについては、新潟県生コンクリート品質管理監査会議と連携してプラントの定期管理検査を省略するということをやっています。また、無筋コンクリートの使用実績に基づく、試

し練りの省力化です。これまで6か月未満であれば省略と限定された期間でしたけれども、無筋コンクリートの使用実績に基づけば6か月以上であっても試し練りは性状確認というものでなければ省略できるということで、事務所にも通知を出しています。

工事管理システムについては、Kcubeというのをご存じかもしれませんが、Kcube2ということで進化したシステムに改善してあります。具体的にはエクセル様式をダウンロードして、それに入れたあとに投入できることから、ミスの防止とか複数人で作業ができるということが可能になりました。それから間違いが見付かったあとの修正では加筆可能なシステムになったということで、再入力必要性がなくなったということです。また、出張に行ったときでもタブレット等で書類の閲覧が可能となったということで、迅速に確認できるようになりました。大きく四つ改善した項目がありますが、また今後も必要があれば改善ということも上のほうにも提案していきたいと思っています。

中日本高速道路(株)
金沢支社との
意見交換会

■開催日／平成28年9月26日(月) ■場所／興和ビル10階会議室



中日本高速道路(株)金沢支社との意見交換会出席者名簿(敬称略)

中日本高速道路(株)金沢支社

保全サービス事業部長	河合 朝仁
環境・技術管理部長	望月 俊明
環境・技術チームリーダー	山脇 慎
環境・技術チームサブリーダー	木原 晃

日本建設業連合会北陸支部

契約積算・技術委員会	
委員長	河本 克正
副委員長	早川 文夫
副委員長	志満 信彦
委員	西口 達也 木村 淳二
	嶋田 浩一 川島 康広
	山村 学 尾藤 雅史
	(代理:下村一夫)
	渡邊 浩匡 清水 浩
事務局長	本間千代吉

※役職名は意見交換会当時のもの

平成28年度における金沢支社管内の事業計画について

（NEXCO中日本金沢支社）

お配りしました事業概要の資料を使って説明をさせていただきます。

始めに、昨年度で安全性向上3か年計画が終了しましたが、今後も引き続き安全を最優先とした企業文化の醸成を進めていく事を宣言させていただきます。

まずトピックスとして、社会実験にて実施中の路外給油サービスを紹介させていただきます。高速道路上において150Km以上ガソリンスタンドが無い区間については本線上にガソリンスタンドを造るのではなく、一度高速道路の外に出て給油をしていただき、再び高速道路に戻った後も長距離通減の割引が継続するという取り組みです。東海北陸道の福光インターにおいて実施しており、今のところ1日1台くらいの利用があります。

次に中日本グループの事業内容についてご説明します。当社は延長約2,000キロメートルの高速道路を管理しています。その内、金沢支社においては富山、石川、福井の北陸3県と岐阜県と滋賀県の一部、延長340kmの高速道路を管理しています。組織としては支社長以下、総務企画部、保全サービス事業部、環境・技術管理部、関連事業部の4部体制で事業を行っています。

地域に根差した事業として、スマートインターチェンジ(以下SICと記す)をご紹介します。現在、能美根上SIC、敦賀南SIC、三方五湖SICが事業中であり、上市SICが今年度事業化されました。

平成28年度の発注計画について、一般競争入札は今年度59件の予定に対し、9月末現在28件の工事が発注済みです。中でも塗替塗装工事は例年よりも多く、18件の発注予定となっております。先ほど申しましたとおり、上市SICが今年度から事業化され、これから事業に着手するといった状況です。この上市SICが完成すると、北陸道が通過する富山県内の市町村すべてにインターチェンジが出来るという事になります。詳細な発注情報については当社のホームページに掲載されておりますので、興味がありましたらご覧ください。

大規模更新を除いた金沢支社のビッグプロジェクトとして東海北陸道の付加車線事業を紹介させていただきます。現在、名古屋支社管内で四車線化工事が進んでいるのですが、我々の管内では、小矢部砺波ジャンクションから五箇山インターチェンジの間で2区間の付加車線の設置が事業化されました。具体的には南砺SIC付近から小矢部砺波ジャンクションまでの区間と城端トンネルの北側付近から福光インターチェンジまでの区間において付加車線を設置する事業です。（日本建設業連合会）

大規模更新・修繕事業ですが、開通してからの経年数によって構造物の傷み具合というものを個々に調査されて優先順位を決めていくと思うのですが、やはり基本的には経年の影響が一番大きいということで順位が出てくるのでしょうか。それとも地域的に天候の影響を受けやすいところのほうが優先になってくるのでしょうか。

（NEXCO中日本金沢支社）

従前は大きく損傷を受けてしまったものを対処療法的に補修する、または取り替えるというやり方をしてきました。したがって、いろいろな外的要因により補修を実施して来たと言えます。従前はこういう形でやってきたのですが、大規模更新・修繕工事の概念は、高速道路はやはり社会資本ですから、損傷が激しくなる前に、今のうちから少し手を入れようという概念でスタートしましたので、北陸の道路も同じように今のうちから先手を打つという仕組みを入れていく考えだと思ってください。

橋梁は健全度という形で評価をしていますが、ある程度良いものと、すごく悪いものと、どうだろうかと悩む橋梁とがあります。この悩むところから手をつけようというのが基本的な考え方です。それが、更新か、修繕かというのは、その度合いによって決めています。基本的には実施計画においてこの橋の修繕を行う、この橋は行わないというのは、この考えの下に決まっています。

付加車線についてはなるべく早期に完成させて、その効果を検証したいと考えております。

今年度の入札参加資格要件の緩和の動向について

（NEXCO中日本金沢支社）

入札の参加資格要件は個別の工事ごとに工事特性というものを考慮して決定していますが、一般的な事項としては、例えば床版取替工事に関しては品確法の若手技術者の活用というような観点を視野に入れて、競争参加資格者の増

加を促進する方策を定めています。

具体的には、企業に求める同種工事の施工実績や配置予定技術者に求める同種の工事経験については緩和していく方向です。

大規模更新の状況

（NEXCO中日本金沢支社）

今まで構造物は大規模に修繕をすれば元の性能に直るという考え方だったのですが、実はそうではないということで、今回、まずは大規模更新事業により新設、あるいはそれと同等の事をしていきたいと考えています。それから、損傷がそこ

まで至らないものについては、修繕事業という事で予防保全を実施していく事を考えています。大規模更新事業の対象はほとんどが橋梁です。すでに2年経過していますが、中日本高速道路全体で床版の取り替えを74キロメートル、7,000億円弱を15年間で執行していく計画です。

大規模修繕事業はあくまでも修繕であり、床版に対しては高性能床版防水工であるとか、桁でいうと桁補強工を実施していきます。防水工で400億円弱、桁補強では1,300億円ということで考えております。それから盛土、切土といった土構造物については、グラウンドアンカーの締め直しや新規設置、水抜工等を実施する予定です。対象箇所数だけは5,000箇所弱と膨大ですが、金額としては740億円です。トンネルについては盤膨れ対策としてインバートの設置などを予定しております。対象箇所延長35キロあり、700億円弱の予定をしています。公表している限りでは、中日本高速道路全体で単純に1兆円の事業規模ですので、これを単純に10で割っても毎年1,000億円くらいを執行していかなければならないという非常に厳しい状況です。

金沢支社の2016年の更新事業では、早月川橋床版更新工事、日野川橋床版更新工事、もう一つ切土の用・排水溝工事を実施中です。こういうことを抜本的にやっていくことでスタートしたところ です。

大規模更新ということで床版取替工事についてはよくご存知かと思いますが、対面通行規制を行って、片方の橋梁を完全に通行止めにして床版を取り替えていくという工事です。規制の工程がなかなか厳しいというところが課題です。大規模修繕としては床版に対し高性能の床版防水を実施していきます。北陸道は塩や塩水を大量に撒きますから、その塩が床版に雨水とともに浸透し塩害によって鉄筋が腐食する事により床版が損傷する事例があります。また、ASRとの複合劣化により床版が損傷している橋梁が非常に多くあります。こういった橋梁が高性能床版防水工の対象です。また、橋梁の桁補強工はアウトケーブルを実施します。使用するケーブルは表面被覆により床版劣化の劣化因子の浸透を防ぐ工夫をしています。トンネルに対する大規模修繕のメ

ニューとしては、覆工コンクリートのクラックに対する炭素繊維シートの貼り付け、路面の隆起に対するインバートの設置といった対策を実施します。土構造物に対しては、アンカーの再緊張、切土への水抜工の実施、のり尻に蛇籠やふとん籠を置くなど非常に地味な作業を実施していかなければなりません。ちなみに、大規模更新事業は2015年度から始まり2029年までの15年間で実施しなければなりません。償還期限を10年間延長して3兆円という予算を捻出しておりますので、何とか大規模更新によって高速道路の延命活動、リニューアルを図っていきたいと考えています。

（日本建設業連合会）

床版取替の材料というのは、スベックはNEXCOさんの方である程度決めていくのでしょうか。

（NEXCO中日本金沢支社）

実は決まったものありません。富山県、石川県などASRなどコンクリートに関して非常に問題意識を持っている地区でもあります。要領がないため、今回の発注は設計も含めたデザインビルド方式にて実施しました。これは応札者にまず構造として成り立つような設計をしていただき、その成果をもとにプレゼンテーションを実施し、落札者を決定する入札方式です。この場合、不落札で競争に負けても設計のお金はお支払するというやり方です。今後は今回の設計成果品をもとに一定のガイドラインを作っていく考えです。

（日本建設業連合会）

車線の切り替えなど、ある程度NEXCOさんで基本方針は持っているわけですね。

（NEXCO中日本金沢支社）

そうです。もともと協議は私どもがやるので、デザインビルドの中でも規制協議は私どもが各県警の高速隊を通じてやっております。

工事施工の円滑化と適正な工程管理を行う上での受発注者のコミュニケーションの確保について

（NEXCO中日本金沢支社）

国土交通省は、通常4点セットと言われるガイドラインを作り、それに基づいて会議をしていると聞いていますが、当社においても、これに対応するマニュアル類を整備して工事の円滑化を図っています。

国土交通省のマニュアルを参考に「土木工事請負契約における設計変更ガイドライン」、「工事一時中止ガイドライ

ン」、「設計施工技術検討会」、一応「三者会議」と呼んでいますが、このガイドラインを作っています。

金沢支社管内は大きな建設工事がないものですから、三者会議というようなものはマニュアルを公表してからは1件だけですが、今後大きな工事が増えていけば前向きに取り組んでいきたいと考えています。

積算工程に係る図書等の交付並びに積算条件の明示について

（NEXCO中日本金沢支社）

これについては「設計変更ガイドライン」の中に細かく明記しております。工事発注に際して交付する設計図書においても適切な条件明示を実施していると考えています。割掛項目については昨年の7月15日から割掛の数量の内訳、仕様を割掛対照表の参考内訳表として入札の参加希望者に交付しています。また、必要に応じて割掛内容を明示する参考図

書、図面を作成し添付する取組みを実施しています。

発注に関する質問項目も非常に多く、これについては、もちろん適宜に返しているところですが、そういったものをフィードバックして一度質問が来た内容については同じ質問が来ない様に設計図書をアップデートして、なるべく積算条件を分かり易くする努力をしていきたいと考えております。

施工条件、現場条件の変更に応じた迅速なレスポンスについて

(NEXCO中日本金沢支社)

施工条件等の変更というのは、図書交付時の設計図書において適正な条件明示をする事が第一と考えています。その条件明示をすることによって、受発注者間における協議が円滑になされと考えております。

受発注者における条件変更の理解を深めるため、「設計変更ガイドライン」の説明会を今年の7月に実施しています。当社の職員と受注者に加え、県の建設業協会にも声を掛け、石川、福井、富山の3県でそれぞれ説明会を開催しました。条件変更の具体的な事例を示し、これに該当する場合には適切な設計変更を実施しなければならない旨の説明を行い

ました。説明会には3県で述べ50名の方にご参加いただきました。レスポンスの向上については、設計変更ガイドラインにもある「ワンデーレスポンス」の取り組みを実施しています。当社が実施する「ワンデーレスポンス」というのは、工事の施工中に発生する諸問題等に迅速に対応することにより、現場の手待ち時間に対応するという取り組みです。それから、受発注者間における質問、協議の回答というのは、基本的にその日のうちに回答するという事で、即日回答が困難な場合は回答期限を明確にする事を実施しています。協議事項に迅速に回答するという方向では、皆様と同じ方向を向いていると考えています。

生産性の向上について

(NEXCO中日本金沢支社)

ICT技術につきましては、まだ始まったばかりということで国の「i-Construction」の趣旨、実施状況を踏まえて、今後、高速道路で適用できる取組みを検討してまいります。プレキャスト部材については、すでに大規模更新事業で鋼橋の

床版はプレキャストコンクリート床版による取替えを行う事を基本としております。当支社においては今後、建設工事で大規模に実施する機会が無い場合、他の部材の活用という点ではよく分からないのが正直なところです。

施工時期の平準化

(NEXCO中日本金沢支社)

なかなか予算の配賦時期などの制約もあり難しい状況ですが、冬季に施工出来ない工種に絞ってなるべく早期に発注すべく予算を確保するなどの対策をとっていきます。例え

ば舗装工事などは冬期施工が難しいため、1月、2月に発注して4月から工事が出来るように予算措置をして行きたいと考えています。

独特な施工管理や品質管理の今後の方向性

(NEXCO中日本金沢支社)

抜本的な見直しは現在のところ予定しておりません。効率性の観点からは、コンクリートの施工管理について見直す動きがあります。コンクリート施工管理要領の区分のうち、小規

模や用途に照らして工事品質管理が過度になっているような項目を対象に、試験頻度を減らす検討をしていくなど、少しずつ効率化を図りたいと考えています。

工事関係書類の簡素化や電子化に向けた取組み

(NEXCO中日本金沢支社)

工事管理支援システムに関しては、今年の3月28日から新しい工事情報共有・保存システムとしてKcube2をリリースしています。主な改正点としてWeb上での入力を取りやめ、品質管理データをエクセルにて作成し、それをシステムにアップロードする様に改良しました。これにより、受注者のベースで必要書類を作成できるようになります。また、提出データをExcelデータとしても保有する事が出来ます。システム機器についてもクラウド化したため、システム構成の変更に多様に対応可能なため、システムの改善にも素早く対応出来る様に

なっております。

工事関係書類については、現在でも紙と電子媒体の二重提出というのは求めておりませんが、工事の状況によってはトークンが来っていないから先に紙で提出するとか、後で電子データを入れるといった齟齬が生じていました。システムに登録するための電子証明書の取得に時間が掛かるといった話がありましたので、小規模工事に限っては、ユーザーIDとパスワードだけでKcube2を使える様に改良しています。できればこういったシステムを通してすべての書類を管理していく方向にしたいと考えています。

特集
4

平成28年度 建設技術報告会

■開催日／平成28年10月19日(水) ■会場／金沢市文化ホール

「建設技術報告会」は北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁並びに民間建設会社において、新たに研究開発された新技術新工法等の発表により広く技術が普及することを目的とし、北陸建設事業推進協議会の主催で1995年から開催され、今年で21回目を迎えました。会場となった金沢市文化ホールでは北陸地方整備局の渡辺企画部長が開会の挨拶をされ、コマツ執行役員四家千佳史氏による「ICT建機による建設現場の新しい生産性向上方法」をテーマに基調講演が行われました。講演会は、2会場に分かれて31技術の発表と各社の保有する33技術パネル展示が催されました。最後に佐藤実行委員長による本報告会の総評と閉会の挨拶で幕を閉じました。



開会挨拶 (渡辺企画部長)



基調講演 (四家千佳史氏)



佐藤実行委員長による総評・閉会挨拶



第一会場



パネル展示コーナー

【技術報告をした日建連北陸支部会員会社とテーマ】

	会社名	テーマ区分	報告技術名
1	株安藤・間	⑤	ローカーボンハイパフォーマンスコンクリート (Low Carbon High-Performance Concrete 略称:LHC)
2	株大林組	⑥	山岳トンネルの高速切羽前方探査技術
3	鹿島建設株	⑥	ダム再開発工事における施工の合理化
4	佐藤工業株	①	ウォータージェット削孔による長尺補強鉄筋の挿入工法
5	清水建設株	①	高ひずみ樹脂による構造物の機能保持技術 ～タフネスコート～
6	大成建設株	①	シャフト式遠隔操縦水中作業機「T-iROBO UW」
7	日特建設株	④	高圧噴射併用機械攪拌工法 L-スピンコラム工法の開発
8	株フジタ	④	ブランチブロック工法
9	前田建設工業株	⑤	自然由来ヒ素汚染土壌の鉄粉による分離浄化処理工法の適用拡大

報告テーマ

- ①「社会資本の的確な維持管理・更新」 ②「雪に強い地域づくり」 ③「良いものを安く(i-Construction)」
④「自然災害からの安全確保」 ⑤「環境の保全と創造」 ⑥「その他」

素敵な女性

「自分らしく」

Q. 建設技術者を目指したきっかけを教えてください。

A. 大工だった父親の影響で、幼い頃は職人になって現場で働きたいと思っていました。しかし、女に職人は無理だと言われ、それならと現場監督を目指しました。

土木の道を選んだきっかけは、青森・北海道をつなぐ青函トンネルです。幼稚園の頃、海底駅を歩きながら様々な展示を見るイベントに参加し、当時の工事の大変さ、自然の驚異を目の当たりにしました。それと同時に、困難に対して全員で立ち向かい、人々の生活を変えることができる土木という仕事にロマンを感じ、土木という世界を志すきっかけとなりました。

Q. 今までに携わった現場・業務、及び現在担当している現場での業務を教えてください。

A. 現在入社6年目になりますが、その内5年間は現場、1年間は本社の設計部門と、ほとんどを現場で過ごしてきました。

現場業務として、液化天然ガスの受入基地、新幹線車両基地の建設工事に携わりました。

現在は、石川の志賀原子力発電所にて、安全性向上工事に携わっています。担当業務は躯体構築の施工管理です。現場で協力会社の方々の声を聞きながら、より良いものを安全に造っているよう、管理を行っています。

Q. 女性が現場で働く意義や魅力は何だと思いますか？

A. 自分自身、「女性だから」「女性なのに」と意識したことは、ほとんどありませんが、私が現場で働くことで、女性であっても自分の本当にやりたいことを、性別に関係なくできるということを示し、女性が新たな業界に飛び込むきっかけになればと思います。

まだまだ男性が多い建設業界において、「女性が居ることが普通」になり、建設業を身近に感じる一助になれば幸いです。

Q. 建設技術者を志す女子学生に、一言メッセージをお願いします。

A. 女性技術者が増えたとは言いながら、実際現場に出るとまだまだ女性は珍しいのが現状です。



鹿島建設株式会社
北陸支店

村川 はるみ
Harumi Murakawa

今回は、北陸電力㈱発注工事の
原子力発電所における
安全性向上工事でご活躍されている
村川はるみさんにお話を伺いました。

しかし、珍しいからこそ良い意味で名前を覚えてもらえるというメリットもあります。また、数が少ないからこそ、「こうあるべき」という姿ありません。あまり肩肘張らず、まずは飛び込んでみることから始めてみてはいかがでしょうか？

「あれ？これなんだろう？」私が乳がんのしこりに気が付いたのは、何の前触れもなく、「ある日突然」でした。それまでもずっとそこにあっただろうに、私は気が付かずに元気いっぱい暮らしていました。一つ目の病院ではエコー検査をして、二つ目の病院でマンモグラフィーを受けました。ガン宣告をまさか30代で受けるなんて夢にも思っていませんでした。この病気を授かってからというもの、私の人生観や生き方は大きく変わりました。命には限りがあると分かっていたつもりでしたが、「あなたは乳がんです」と目の前で言われた瞬間、まるで砂時計の上下を「カッ」と返されたように、時間の限りを自分の事として受け止められるようになりました。そしてもうひとつ、私の体は私だけのものではなく、家族の人生にも大きく影響を与えてしまうものであること。だから自分の体を管理して元気であることはひいては家族を大切にすることにもつながっているんだということを実感しました。

当たり前のことのようですが、意外と日常生活を忙しく送っていると忘れがちなことだったように思います。乳がん治療は主に、手術、抗がん剤、放射線、ホ

ルモン療法というのが大きな柱。私もフルコースの治療を提案され、受けてきました。抗がん剤の副作用の中で女性にとって一番辛いと言われる「脱毛」。私もまつ毛、眉毛に至るまで体中の毛という毛の全てが抜け落ちていきました。泣いてもわめいても現実には変わることなく、鏡に映る自分を呆然と眺めていた日が、今では愛おしく懐かしく感じます。そんな私を一番近くで支えてくれた主人は、私が脱毛する前に自分も頭を丸め、「大丈夫。あんな日もあったね。坊主頭も懐かしいねっていえる日が必ず来るから。」と励まし続けてくれました。体力も食欲も落ち、気力も奮い立たせられなかったときは、動物愛護関連でお世話になっているお姉さんが、手作りのご飯を何度も何度も届けてくださいました。味付け、彩り、栄養が愛情たっぷりに考えられた手料理に、私はどれだけ救われたことでしょう。その時にお姉さんが私にかけてくれた「吐いてもいいから食べなさい」という叱咤激励のおかげで、私は栄養不足にならず、抗がん剤治療を最後まで受けることができました。

およそ1年半に及ぶ治療は、生ぬる

いものではありませんでしたが、今ではこの病気が「授かりもの」だったんだと思えるようになりました。沢山の方に優しくしていただき、助けていただき、励ましていただきました。がんにならなければ出逢えなかった人も、がんにならなければ感じられなかった幸せもたくさんあります。感謝してもしきれぬほどです。

いつ誰がなるかわからない「がん」という病。早期発見が鍵だと言われてはいますが、残念ながら初期段階での自覚症状はほとんど皆無です。だからこそ定期的な健康診断やがん検診が大切です。愛する人を思い浮かべて、まずはご自身の体の声に耳を傾け、健やかに楽しい毎日を送ってくださいね。

抗がん剤治療の副作用で頭皮が敏感になっている方にもお勧めのニット帽があります。見附市のニットメーカー、関栄 ニットが手掛けるブランド「amuamu」です！カラーバリエーションは100色！組み合わせは無限大！特徴は何といっても薄くて軽いということ。ほとんどストレスを感じることなくかぶれますよ！夏は1枚で涼しく、冬は重ねてあったかくお洒落に！「amuamu」もちろん男性にもお勧めです。

エッセイ ESSAY

『愛する人を思い浮かべて』



フリーアナウンサー
伊勢 みずほ
Mizuho Ise



「洗濯表示が50年ぶりに変わります」



有限会社 三栄ドライ
代表取締役

井澤栄一郎

Eiichiro Izawa

2016年12月から、50年ぶりに変更される衣類の洗濯表示。いよいよ国際標準化されます。いまの22種類から41種類に。でも、基本となるのは「家庭洗濯」「漂白」「乾燥」「アイロン仕上げ」「クリーニング」の5種類だけなので、意外とシンプルです。日本の国際標準化にともなって、日本の洗濯習慣にも配慮し、国際規格自体も改正されました。詳しく

は、インターネット検索で「新しい洗濯」って打ち込むと消費者庁の解説サイトが出てきます。動画も載っていますのでチェックしてみてください。

いままでの日本の表示は、洗いやアイロンは何度…といった「指示表示」だったんですが、新規規格は回復不可能な損傷を起こさない最も厳しい処理・操作に関する情報を提供する「上限表示」に。日本側の提案で「ウェットクリーニング」「乾燥機」が追加になりました。ちなみに、「ウェットクリーニング」っていうのは、ご家庭で洗濯すると型崩れや色落ちしやすいデリケートなものを、プロの技と専用洗剤で洗い上げ再整形するサービスのことで、日本で発達した世界に誇る技術です。

水洗いできる作業着などは、これまで四角い洗濯機の図とタライの図だったところが、タライに統一されてきます。

さて、当店でも定期的に工事現場の作業着を洗わせて

いただくことが多いのですが、生地が高機能で丈夫になってきましたね。綿、ポリエステル、T/C素材（一般的には綿35%、ポリエステル65%の混紡素材）が主流でしょうか。ほとんどの作業服は一般的に強度が強いとされている綾織となっています。作業着に接着剤や機械油などが付いた場合、すぐに台所用洗剤などで揉んで、洗濯表示に従って洗えば目立たなくなることも。

できれば、お早めにクリーニング屋さんにお持ちいただければスッキリですね。



ゆーたいむす

「地方からの創造 愛すべき地元と変わった石川」



マルチクリエイター
(石川在住)

野崎 貴弘

Takahiro Nozaki

10代の頃、地元石川県が退屈で窮屈に感じていた私は20歳で上京し、今日までお陰様で16年間フリーランスのクリエイターとして活動させて頂いています。

転機は東日本大震災でした。

以前は東京でなければ得られなかったような情報が地方でも手に入れる事が出来る時代になったことや、一度も直接会った事の

ないクライアントさんとお仕事（建築パース製作や映像制作等）をさせて頂いた経験から、石川に居ても同じように仕事が出来るとはならないか？それが出来たらもっと面白い事ができるのではないかとこの思いから、2011年春から地元、石川に活動の拠点を移しました。

石川での2年目の夏、北陸新幹線開業に向けての金沢ナイトミュージアムというイベントがあり、そこで中村記念美術館の敷地内にある旧中村邸で、2013年当時まだ珍しかったプロジェクションマッピングの企画・構成・演出・音楽・映像の全てを一人で担当させて頂き、地元メディアにも大きく取り上げて頂く結果を得ました。

この仕事を成功させたことで、一人でもこういったコンテンツを作る事が出来る時代が来た実感出来、自分の中での自信にもなりました。

そしてこの案件は東京に居ては成し得な

かっただろうと思っています。声をかけて下さった金沢芸術財団の方々、その他ご協力頂いた皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

退屈で窮屈だと決めつけていたのは実は自分自身で、単純に自分が変われば何処に居ようと関係なく自分の世界を変える事が出来ると今は信じています。

そして退屈でも窮屈でもない愛すべき地元と変わった石川県で出来る事、ここでしか出来ない事を見つけて楽しんでやっていきたいと思っています。



「バレーが教えてくれたこと」



半田beans
コーチ

山崎 渚

Nagisa Yamazaki

バレーボールはコートに立つ6人が声を掛け合い、サーブ、レシーブ、トス、スパイクと繋いで得点を重ねていくスポーツです。レシーブが苦手な人には他の人がフォローしてあげられるし、大事な局面ではエーススパイカーに託すこともできます。逆に1人だけが上手であったとしてもボールは繋がりません。そ

こがバレーボールのおもしろいところだと思います。

私は、高校の部活動、大学でのサークル活動、そして社会人チームに所属するなど7年間プレイヤーとしてバレーを続けてきました。現在は、住んでいる新潟県柏崎市でママさんバレーボールチーム「半田beans」のコーチをやっています。

「選手というのは、どんなレベルであっても練習や実践を積み重ねていくうち、自分の欠点がわかってくるが、良い点に気付かないことが多い。将来、指導者になることがあったら、2割の短所より8割の長所に着目していきたい。」

これは、アメリカナショナルチームで活躍されたヨウコ・ゼッターランドさんの言葉で、私が始めて声を掛けてもらったコーチという役割についての目標でもあります。

ポジティブ法は自分自身に対して良いイメージを持たせることで、気持ちの中に自信

が芽生えることへ繋がるので、とても大切なことだと思います。さらに、これらはバレーボールだけでなく、仕事や日常生活においてもいえることだと考えます。

社会人1年目で不安も多いですが、プライベートは充実させつつも、新しい仕事をひとつひとつ覚えていくと共に、コーチとしては選手をよく観てアドバイスすることで、自分に自信を持ちながら生活を送れるよう日々精進していきたいと思っています。



「お気に入りの場所、現美新幹線」



JR東日本
新潟支社

日野 淳一

Jyunichi Hino

かった列車旅になること間違いなしです。今年4月から新潟～越後湯沢間で運行を開始した現美新幹線の楽しみ方を少しだけご紹介します。

一つ目は13号車のカフェ。燕市にあるこだわりの「ツバメコーヒー」や、魚沼産米粉を使ったスイーツ等が楽しめます。カフェ内にもテーブルがありますが、各号車のソファに座ってゆっくり召し上がるのがおすすめです。横向きのソファで足元は広々、アートと風景を交互に眺めながら味わうコーヒーは格別です。

二つ目はカフェ隣のキッズスペース。カーペットの上には電車のオモチャが並べられ、足を踏み入れた子供たちは目を輝かせます。新幹線の中で電車遊び、楽しい思い出になること間違いありません。

最後のポイントはやはり「現代アート」。といっても構える必要は全く無いのです。私のおすすめは車内の片側が鏡のアートになっている12号車。走りだすと反対側の窓に流れる景色が鏡のアートに映り、開放感のある不思議な感覚を味わえます。

現美新幹線のキャッチフレーズは「世界最

速の芸術鑑賞」。世界初のユニークな演出を是非体験してみてください。きっと車内に「お気に入りの場所」が見つかるはずです。



MY PRIVATE TIME

私のプライベートタイム。



五洋建設㈱
北陸支店長
細貝 隆司
Takashi Hosogai

「心地よいボクの時間」

最初に自己紹介をいたします。生まれは東京渋谷区。小学5年の時、あの東村山市へ。高校まではサッカー、野球、バスケットボールに夢中。高校は男女共学、文化祭・体育祭は楽しい思い出がありました。大学は金沢大学土木工学科へ。マージャン、第七ギョーザ、「武」のおでん、8番ラーメンを愛するとともに、工学部準硬式野球部に所属。守備はファースト、打順は9番(適材適所! (笑))。(※同期の鹿島建設㈱大野営業統括部長はショートで3番)。妻は金沢出身、子供は息子3人。12年は親と同居、その後、茨城県ひたちなか市へ転勤(19年間)、東村山に戻り、現在、妻・三男・母と同居。	袋秘帖 殺人事件』、『若さま同心 徳川竜之助』、『妻は、くノ一』、『姫は、三十一』、『隠密 味見方同心』、『大江戸定年組』等のシリーズ。ご興味がございましたら、読んでみてください。読み易く、笑えます。	【妻との時間】二人で道の駅巡りと日帰り温泉を楽しんでいます。道の駅では、地元の味噌や新鮮な野菜・果物をたっぷり買ってきます。日帰り温泉では、源泉掛け流しの湯にマったりと浸ければ、疲れも吹っ飛びます。
会社の勤務は、本社→東京土木支店→シンガポール→東京土木支店→本社、今年の4月に北陸支店。現在、支店から徒歩6分のマンションに単身赴任。平均して月に2回帰省。	【朝の運動】以前は、週1回の筋トレ2時間と毎日のストレッチ15分でしたが、新潟に転勤してから「やすらぎ堤」でウォーキング35分と、ストレッチ・軽い筋トレ20分。特に天気の良い日のウォーキングは、空が綺麗で一日のスタートには最高です。	【掃除】自分の家を持った瞬間に“掃除したいスイッチ”が入りました(妻もビックリ)。妻は仕事・ホットヨガ等で忙しいですから、当然、大喜び。特に台所・トイレ・お風呂を綺麗にするとスッキリ!最高に気持ちが良いですね。
それではプライベートタイムの過ごし方をお話します。	【料理】家族のための料理作り。得意なのは中華風うま煮、味噌汁、トマト・野菜スープ・鮫鰯鍋そして糠漬け(塩漬けも)です。My糠床を自宅にキープしています。我が家の好みから、主にキュウリ、かぶ、ニンジンを漬けます。自分で言うのはなんですが、実に美味しい!昆布、ニンニク、生姜、鷹の爪、糠を定期的に入れ、糠床の調整をします。妻・三男・母はもちろん長男夫婦、二男夫婦も喜んでくれ、「美味しいー!」と叫びます。	【愛する孫】何と言っても、この時間が最も幸せな時間です。目に入れることは出来ませんが、孫と過ごす時間は最高!孫は二人、1歳10ヶ月の男児(長男の子:理輝(現在アメリカ))と6ヶ月の女兒(二男の子:茉優)。抱いたり、スリしたり、お風呂に入ったり、笑ったり、何をしても最高に嬉しいのです。
【読書】時代劇の謎解き小説が好きで、特に風野真知雄の大ファン。『耳		以上、私の各種プライベートタイムを披露いたしました。私にとってプライベートタイムは一言で表わしますと、“とても心地よい時間”なのです。

事務局だより

平成28年度上半期の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

公共工事の諸課題に関する意見交換会

開催日／平成28年5月31日(火)
会場／ホテルオークラ新潟
内容／ゆう「特集号」平成28年8月25日発行に内容を掲載

北陸支部定時総会の開催

開催日／平成28年5月31日(火)
会場／ホテルオークラ新潟
内容／ゆう「特集号」平成28年8月25日発行に内容を掲載

「土木の日」親子工事見学会

実施日／新潟班 平成28年7月26日(火)
見学場所／新潟防災センター
五十嵐川災害復旧現場
(参加者23名)

実施日／長岡班 平成28年7月28日(木)
見学場所／長岡維持出張所
上信越自動車道矢代工事
(参加者20名)



内容／建設業の社会的使命や社会資本整備の必要性を広く知っていただくために、夏休み期間中に小学校高学年の児童とその保護者の方を対象に、見学会を実施しました。

北陸電力への本部役員挨拶

開催日／平成28年8月3日(水)
内容／宮本土木本部長をはじめ土木本部役員と守田支部長による、北陸電力への挨拶を行いました。金井社長のご出席をいただき情報交換を行いました。

東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会

開催日／平成28年9月21日(水)
内容／本誌P8に掲載

中日本高速道路(株)金沢支社との意見交換会

開催日／平成28年9月26日(月)
内容／本誌P12に掲載

市民現場見学会

開催日／平成28年9月29日(木)
見学場所／次期廃棄物埋立場埋立地整備工事
H26-28金沢東環 神谷内トンネル(2期線)工事
梯川改修事業天神地区改修事業
金沢大学学生対象



開催日／平成28年10月25日(火)
見学場所／信越線新潟駅付近連続立体交差事業
新幹線・在来線同一ホーム乗換事業
柏崎周辺(二期)農業水利事業市野田ダム建設工事
新潟大学学生対象



BACK STAGE 編集後記

いよいよ冬の訪れとなり肌寒い季節がやってきました。昨年の冬も積雪が少なかったようですが、昔に比べれば減少傾向なのかもしれません。

とはいえ、今年は熊本の地震災害をはじめ、全国各地で台風や大雨による水害等に見舞われました。昨今の気象は被害が出ると甚大なものが多くなったように思います。

そんな中で、国の施策である「国土強靱化計画」の基本目標である人命の保護・国家及

び社会の重要な機能の維持・国民の財産及び公共施設の被害最小化・迅速な復旧活動等に対応するために我々建設業界も健全な経営活動が必要です。担い手不足の解消、女性技術者の活躍しやすい環境作りなど課題は多々ありますが、社会のためには不可欠な産業であることを再認識し、日々研鑽に努めたいと思います。

(工藤 悟 記)

広報委員会スタッフ

委員長 細貝 隆司(五洋建設)
副委員長 岡崎 豊彦(熊谷組)
委員

昆野 徹也(安藤・間) 石附 裕(植木組)
濱 一男(大本組) 吉田 裕之(加賀田組)
垣内 俊彦(鹿島建設) 田中 哲司(五洋建設)
小川 晃市(清水建設) 小林 恵一(銭高組)
和田 茂秋(第一建設工業) 岩佐 一郎(大成建設)
窪田 利晴(東亜建設工業) 津川 圭一(フジタ)
永田 健二(前田建設工業) 工藤 悟(若築建設)
事務局長 本間千代吉(日本建設業連合会北陸支部)

61

2016.12